

VIII. サル所外供給（有償）事業

従来共同利用研究の一環として行っていた「サル所外貸与」を廃止し、平成 17 年度より有償の「サル所外供給」を開始した。平成 18 年度は、平成 17 年度に決定した 1 申請者に対してコモンマーモセットのオス 2 頭の供給を行った。

平成 18 年度サル所外供給委員会：M.A.Huffman(委員長)、景山節、友永雅己、大石高生
(文責：M.A.Huffman)

IX. NBR の活動

ニホンザルバイオリソースプロジェクト (NBR)について

本プロジェクトは、第一期として予定された 5 年間（2002 年度～2006 年度）の最終年度として、一応の区切りを付ける年となった。ゼロからスタートして母群収集や繁殖を進め、本格的な供給事業に向けての試験的供給として、期末までに第一回の供給試行を実施することができた。

第一回の供給試行については平成 18 年 3 月末に募集を開始し、供給検討委員会の審査、運営委員会の承認を経て供給先を決定し、同年 12 月に輸送を完了した。供給したサルは本プロジェクトの委託を受けている民間企業で繁殖したものである。この供給申請に際して義務付けている事前講習を 2 回開催し、のべ 138 名が受講した。

本プロジェクトの委託を受けている霊長類研究所は、繁殖規模を大幅に拡充するリサーチリソースステーション (RRS) の設置を概算要求していたが、後述するように 18 年度にその実現をみた。今後はその運営によって繁殖事業の一翼を実際に担うこととなる。

また、NBR の活動を広く紹介するために、18 年度もシンポジウムを開催した。内容は以下のとおりである。

第 5 回 文部科学省 RR2002 企画シンポジウム

「ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」 - 将来へ向けて、5 年間のあゆみ - 」

日時：2007 年 2 月 2 日（金）

場所：日本大学会館第 2 別館

主催：ナショナルバイオリソースプロジェクト「ニホンザル」バイオリソース運営委員会

（中核機関：自然科学研究機構 生理学研究所

代表者：伊佐正）

後援：京都大学霊長類研究所、情報システム・研究機構 国立遺伝学研究所、独立行政法人 理化学研究所 バイオリソースセンター、日本霊長類学会、日本神経科学学会、日本生理学会、国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会

<プログラム>

開会挨拶 「ニホンザル」バイオリソース運営委員会・委員長 伊佐正

来賓挨拶 文部科学省（ライフサイエンス課長）

NBR5 年間の総括と将来展望